

「宗教者九条の和」

輝かせたい憲法第九条

ー第9回シンポジウムと平和巡礼 in 沖縄ー

「沖縄・福島と憲法九条」開催趣意書

沖縄戦終結から68年目を迎える今日においても、沖縄は、米軍による国際法に違反した土地強奪によって植民地状態に置かれ、日米安保体制のもと、人々を苦しめ続けております。

一方、東日本大震災から3年目を迎える福島では、放射能汚染によって多くの人々が故郷を追われ、数十万人の人々が避難を余儀なくされ、苦難を強いられています。

なぜ沖縄と福島の苦難が続くのでしょうか。それは私たち国民と宗教者の大半が沈黙と無関心を固く守っているからです。

いのちの尊さと日本国憲法で規定されている基本的人権を守る運動の先頭に立つべきはずの宗教者の大半が、植民地状態の沖縄の現実に目を向けず、忘れ去られようとする福島の深刻な状態、すなわち福島県内の半数の子どもたちに甲状腺異常が認められているいのちと人権の問題に真剣に向き合おうとしないのであります。

私たち「宗教者九条の和」に集う諸宗教者は、この間、2009年に沖縄で開催された「9条アジア宗教者会議」、2011年に沖縄のカトリック司教の呼びかけで結成された「基地のない沖縄をめざす宗教者の集い」、昨年末、会津若松で開催された「原子力に関する宗教者国際会議」などの諸宗教者による沖縄と福島に連帯する共同の動きに連なり、あわせて、今年の第8回仙台シンポジウムで現地福島の宗教者と集い、交流いたしてまいりました。

このたび、「宗教者九条の和」は、「基地のない沖縄をめざす宗教者の集い」、「沖縄宗教者9条ネットワーク」の共催を得、来たる9月28日、沖縄県那覇市にある「カトリック安里教会」を主会場に『宗教者九条の和 第9回シンポジウムと平和巡礼「沖縄・福島と憲法9条」』を開催いたします。ここで、沖縄と全国の諸宗教者が集い、交流し、沖縄と福島現地の宗教者の訴えに耳を傾け、基地のない沖縄、原発のない日本をめざす宗教者の責任を明らかにし、同時に沖縄と福島の宗教者の交流がさらに深まり、連帯できることを祈り、願います。

皆様方におかれましては、開催の趣旨をご理解いただき、ご祈念、ご参加いただきますようよろしくお願い申し上げます。

2013年8月1日

「宗教者九条の和」呼びかけ人代表・「基地のない沖縄をめざす宗教者の集い」共同代表

聖護院門跡門主（京都市） 宮城 泰年

カトリック司教 谷 大二

日本キリスト教協議会議長 小橋 孝一

沖縄宗教者9条ネットワーク代表 大城 実